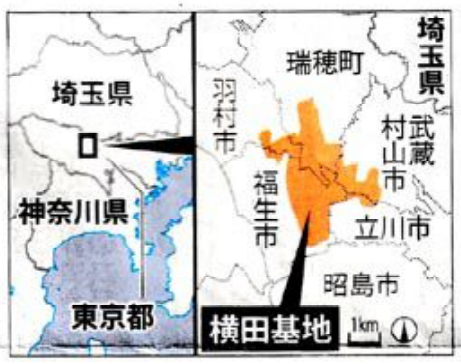
世界に平和を・戦争の基地はいらない

横田基地ミニ情報　2020.10.25 No.393　東京・羽村平和委員会発行

米軍機の飛行が激しさを増す横田基地

オスプレイ配備後「横田」周辺 回数増



在日米軍司令部が置かれ、東京都福生市や立川市、瑞穂町など6市町にまたがる米軍横田基地。2018年度にオスプレイが配備されて以降、周辺での騒音測定回数が増加している。

福生市の調査によると、イラク戦争が本格化した03年度は月平均で70デシベル以上（3秒以上）の騒音が10回発生。それ以降は100回を下回ってきたが、18年度の月平均は10回、19年度は前年を上回る1174回を記録。新型コロナウイルスに伴う緊急事態宣言中の20年4月は1756回に上った。

「コロナ禍の外出自粛で家にこもらざるを得なかったので、騒音が余計に気になった」。JR羽村駅（羽村市）前で7月下旬、オスプレイ配備に抗議する市民団体のビラ配りに参加した瑞穂町の新井美智子さん（68）はため息をついた。基地から約2キロの自宅では、オスプレイが飛ぶと「バリバリバリ」というごう音とともに一軒家のドアのガラスがガタガタと揺れる。

都と6市町でつくる連絡協議会は深夜早朝の飛行を自粛するように米軍に要請してきた。だが、7月に市民団体・羽村平和委員会が記録した午後10時から午前6時の離着陸は15回（米軍チャーターとみられる民間機1回含む）に上り、8月は11回、9月も7回と要請は聞き入れられていない。

基地から約1・5キロに住む瑞穂町の70代女性は「オスプレイが午後11時くらいまで飛ぶことはよくある。何度も回ってくる」という。「ドッドッドッド」と大型バイクがエンジンをふかしているような音が近づくと、窓を閉めても棚の食器が揺れる。滑走路近くの団地で暮らす田中高子さん（73）は「せめて深夜早朝は絶対に飛ばさないでほしい」と訴えた。【川上珠実】

もっと知りたい ＝随時掲載

上の記事は毎日新聞10月20日　　裏面の記事は、東京新聞10月23日

米軍機離着陸 最多8000回超

4～9月 横田基地 増加傾向続く

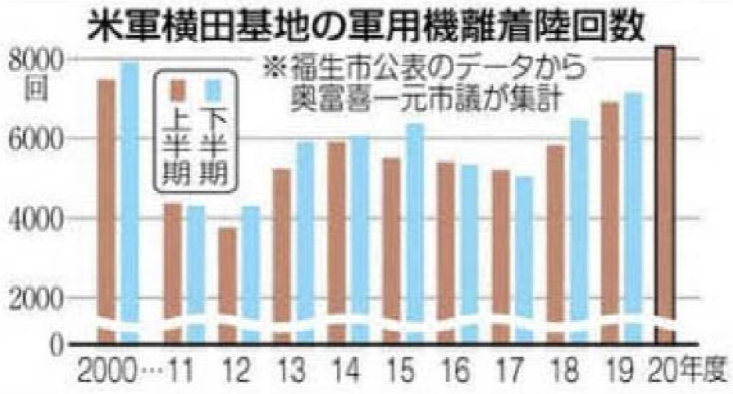
米軍横田基地に17日に着陸した三沢基地（青森県）所属のF16戦闘機＝羽村平和委員会提供

米軍横田基地（東京都福生市など）の軍用機の四～九月の離着陸回数が、半年間としては初めて八千回を超え、二〇〇〇年度以降で最多になった。近年は離着陸回数の増加傾向が続いており、専門家は米国が中国との対決姿勢を強めたことを背景に挙げた。

福生市は市内二カ所で離着陸に伴う騒音を測定し、回数も調査している。〇〇年度から公表されているデータを元福生市議、奥富喜一さん(七)が集計した。このうち横田基地南側の測定地点で、本年度上半期は八千二百九十八回に達した。

これまで半年間で最多だったのは、〇〇年度下半期の七千九百三十回だった。その後は七千回未満で増減を繰り返し、垂直離着陸輸送機オスプレイ五機が配備された一八年度以降に増え、一九年度下半期は七千百五十八回になっていた。

軍用機のうち、オスプレイを含むヘリコプターの離着陸回数も増えている。基地北側の瑞穂町の騒音測定地点では〇五年度以降、年千回を超えたことはなかったが、オスプレイ配備後の一八年度は千三百八十五回、一九年度は千四十七回だった。本年度は上半期だけで千百六十四回に及んだ。



横田基地の報道担当者は、今回の集計に対する回答は控えながら「コロナ対策のため他訓練施設へのアクセスが制限されているため、ローカル飛行運用が増加している」と説明した。

昭島市の軍事情報アナリスト小柴康男さん(七四)は「米国が対中姿勢を強めたことで、在日米軍基地の機能分散が図られ、横田基地も輸送機を中心とした運用だけでなく、他の基地から戦闘機などが飛来するようになった」と語った。

「横田基地の撤去を求める西多摩の会」の高橋美枝子代表(七〇)は「横田だけでなく、各基地で訓練が激しくなっている。実態を多くの人に知ってもらいたい」と話した。（竹谷直子）